

2017年5月31日

第6回オープン・フォーラム・Y開催報告

2016-17 ユース事業主任

大久保知宏（宇都宮）

2017年5月14日、第6回オープン・フォーラム・Yを開催した。ユース31名、ワイズメン12名、一般5名の総勢48名の参加があった。実行委員会はWakeUpJapanの鈴木洋一氏を中心に前回参加者のユースも加えて計3回開催し企画検討が行われた。今回のフォーラムの主題は「参加者一人ひとりが現場の人の声を聞き社会的課題を自分のこととして認識し、新たな一歩を踏み出す。」こととし、オープニングパネル、分科会、Unconferenceにおいて、現場で社会問題に取り組むリソースパーソンのお話を聞き、考える時間となった。午後行ったUnconferenceでは、参加者自らが自身の活動を話し、ディスカッションを行うことで、相互に考えが深まる時間となった。参加したワイズメンも純粋に参加者として企画に参加していて、ユース参加者のアンケートの中で世代間の交流を評価する回答が見られた。ユースとワイズメンのこうした機会は、他のユース事業においてもユース側から求められることが多く、クラブにおけるユース活動の道標と思える。こうした機会をクラブ単位で支援する都市YMCAとの協働の中で実現することが望まれる。

また、WakeUpJapanの鈴木洋一氏は、ユースへの発信力が非常に高く、ワイズメンズクラブがYMCAと協働で実施していくユース育成に力強い仲間となると考える。彼の主宰するWakeUpJapanとワイズメンズクラブが互惠関係を形成していくことを提言したい。

以上

# 第6回

ワイズメンズクラブ東日本区 主催  
Wake Up Japan 協力

# オープン・フォーラム・Y

参加者一人ひとりが現場の人の声を聞き社会的課題を自分のこととして認識し、新たな一歩を踏み出す

時刻	時間	セッション名	特記事項
09:30-10:00	30分	開場、受付	
10:00-10:30	30分	開会式、アイスブレイキング	
10:30-12:00	90分	オープニングパネル アッキーさん(難民として生きる) 長川美里さん(東アジア共生) 大澤和子さん(学習支援)	社会問題に関するパネル・ディスカッション -問題解決に対する思い -問題の構造的な要因 -構造的に解決していくためにユースとどう協力していくか
12:00-13:00	60分	イシュー別食事	トピックごとにテーブルを用意し、話し合いを行う。
13:00-13:30	30分	食休み	食後のセルフケアの時間。
13:30-14:20	50分	社会問題の解決方法と若者	Wake Up Japan 鈴木より、社会問題の解決方法と若者をテーマにした講演と質疑応答
14:20-14:30	10分	イントロダクション	午後の分科会の紹介
14:30-15:45	75分	分科会セッション	大澤和子さん(一人ひとりに寄り添う学習支援) 粟谷しのぶさん(原発事故による放射能被害と法) 小倉哲さん(若者の居場所を作る) 荒井ゆき江さん(伝える技術) 鈴木洋一さん(活動を持続的にするためのセルフケア :アメリカ黒人権利運動の学びから)
15:45-16:00	15分	休憩	
16:00-18:00	120分	Unconference 【オープンディスカッション】	「社会を変えていくために」というテーマで、参加者が話したいトピックを発表して分かれて話し合いを行います。 10分(説明とトピック紹介) 30分(話し合い)⇒20分(共有とトピックだし) 30分(話し合い)⇒20分(共有)
18:00-18:40	40分	クロージング・ワークショップ	
18:40-19:00	20分	閉会式	感想の共有と閉会の言葉



ワイズメンズクラブは、青少年育成団体である「YMCA」の活動を支援することを第一の目的として、地域・国際社会に奉仕する国際的なボランティア団体です。

<https://ys-east.jimdo.com/>

あなたが語る。共感広がる。社会が変わる。

Wake Up Japan

<https://wakeupjapan.jimdo.com/>

# 第6回 オープンフォーラム Y 当日タイムライン

2017年5月19日

時刻	セッション	詳細	時間	メモ	持ち物
8:30	スタッフ集合				
		準備			
9:30	開場・受付開始			講師受入、ヨガが必要なものがあるか聞いておく。	参加者名簿、つり銭、ネームシール、サインペン、ネームシール記入例
10:00	開会式	開会の挨拶(高さん)	5分	プロジェクター設置準備	
		ガイドライン(鈴木)	10分	OFYIに期待していること、自分の行動で社会は変えられると思うか?、OFY終了時にどうなっていた	模造紙(ガイド記入済み)
		*バツファ 5分			
10:20	アイスブレイキング	日本地図をつくる		*5分前に終了する想定で行い。場の雰囲気に応じて適宜アイスブレイキングを追加する。	
		5秒フォト			
10:30	オープニングパネル				
	キーノート・スピーチ	難民としての生活、直面している課題(難民の方)	15分		
		きっかけと取り組んでいる問題解決に対する思い、取り組んでいる課題の構造(長川さん)	15分	*バツファ 5分、残り時間に応じてお話を受けてファシリテータからそれぞれの方に質問する場合があります。	
		きっかけと取り組んでいる問題解決に対する思い、取り組んでいる課題の構造(大澤さん)	15分		
11:15		オープン・ディスカッション/質疑応答	15分	社会問題の解決に向けて若者がどうかかわっていけるのか?	
11:30	グループ・アクティビティ	振り返り	15分	6-8人を1グループとして、話し合いを行う	
11:45		なぜフォーラムに参加したのか?	15分	そのグループを半分に分けて、3-4人で共有を行う	
12:00	昼食	誘導・説明	60分	質問時間が少ないため、食事をしながら質問もできるようにする。 *懇親会を行う場合は大まかな人数を把握する、懇親会参加費収集	
				延長した場合はここで吸収する	
13:00	お昼休み/セルフケア	食休み	30分		
		*5分前に終了すること			
13:30	社会の変え方	社会問題の解決方法と日本の若者の課題	50分	Wake Up Japan鈴木が講演	
		質疑応答			
14:20	分科会セッションのイントロダクション	課題と活動紹介			
14:30	分科会セッション	【イシュー】大澤和子さん(一人ひとりに寄り添う学習支援) 【イシュー】栗谷しのぶさん(原発事故による放射能被害と法) 【イシュー】小倉哲さん(若者の居場所を作る) 【スキル】荒井ゆき江さん(伝える技術) 【内面性】鈴木 洋一さん(活動を持続的にするためのセルフケア:アメリカ黒人権利運動の学びから)			この時間に、フェアトレード紅茶やコーヒーを用意しておけるとよい(ケトルや魔法瓶あればなおよし)
15:45	休憩	一度、オフィス中央に集まるようにお声がけください。		フェアトレードの可視を提供する	フェアトレードチョコレート、紙コップ
16:00	Unconference	趣旨説明	10分		A4用紙 30枚程度
		トピック紹介			マーカー×20本程度
16:10		話し合い	30分		
16:40		共有とトピック紹介	20分		
17:00		話し合い	30分	全体でリフレクション(状況に応じて、ペアのみにする場合有)	
17:30		共有	20分	*バツファ10分	
18:00	クロージング・ワークショップ	グループ作業 ・(自身が)一歩を踏み出すために必要なこと(悩みの共有とそのためのできること) ・課題解決のために、自分の周囲の人々を巻き込むためにできることを考える(人数次第でイシューごとにわかる)		トピックについては要検討。	模造紙×4-5枚 マーカー
18:25		発表			
18:40	閉会式	写真撮影	5分		ワイズメン横断幕?
		アンケート記入	5分		アンケート用紙
		振り返り/感想の共有	10分		
		Depature	10分	*バツファがある場合に実施する。	ポストイット 200枚程度
		閉会の言葉(小松さん・大久保さん)	5分		マーカー×人数分
19:15		終了		15分オーバーする見込みです。	

	参考になった	まあ参考になった	どちらともいえない	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
オープニングパネル	20	4	1	0	0
	80.0%	16.0%	4.0%	0.0%	0.0%
セルフケア	16	8	2	0	0
	61.5%	30.8%	7.7%	0.0%	0.0%
社会問題の解決方法と若者	17	8	0	0	0
	68.0%	32.0%	0.0%	0.0%	0.0%
分科会セッション	18	6	1	0	0
	72.0%	24.0%	4.0%	0.0%	0.0%
Unconference	12	9	4	0	0
	48.0%	36.0%	16.0%	0.0%	0.0%
クロージング・ワークショップ	13	7	2	0	0
	59.1%	31.8%	9.1%	0.0%	0.0%
	長すぎる	ちょっと長い	ちょうど良い	ちょっと短かった	短すぎる
オープニングパネル	0	1	16	7	0
	0.0%	4.2%	66.7%	29.2%	0.0%
セルフケア	0	1	21	4	0
	0.0%	3.8%	80.8%	15.4%	0.0%
社会問題の解決方法と若者	0	3	18	4	0
	0.0%	12.0%	72.0%	16.0%	0.0%
分科会セッション	0	2	13	9	1
	0.0%	8.0%	52.0%	36.0%	4.0%
Unconference	0	1	15	9	0
	0.0%	4.0%	60.0%	36.0%	0.0%
クロージング・ワークショップ	0	3	17	4	0
	0.0%	12.5%	70.8%	16.7%	0.0%

全体通じていかがでしたか？
自分の知らない活動をされている方のお話や考え方を聞いて、自分が今まで当たり前だと思っていたこと、こうあるべきだと思っていたことが揺らぎました。反対に他の方の意見を聞いて、際立つ自分の考えもありました。
アクティブに参加する仕掛けが散りばめられていて、自分の想像以上に発信することができました。今日、来なければ会えなかった人と接点が持てたことにも満足です。
様々な世代、会社員、学生等普段交流しづらい皆さんとお話したり、価値観が共有できてよかった。貴重な機会となった。YMCAのことをほとんど知らなかったが、団体に興味がわいた。
YMCAの日中韓フォーラムについてとても興味がわきました。YMCA外でも企画やお手伝いはできるのでしょうか？このような新しいフォーラムの発見ができてとてもモチベーションがわきました。色々な活動が色々な場所で行われているのですね、...
アイデンティティ(わたしを形づくるものは何か)について、もっと理解を深めたいと思った(アキさんの話を聞いて)自分の大切にしたいことを大切にできているか再確認する機会となった。よーいちさんのファシリテーション、勉強になりました
分科会、もっといろいろ行ってみたかった。他の分科会の内容を知る時間がない。休み時間だと足りない。
全くこれまで触れてこなかったことに触れることができ、自分の中でいくつかの思いや考えが生まれた。本当に今回参加して様々な方々と話すことができてよかったです。
様々な世代の方と考え、対話していくことができる場は素晴らしいと思いますし、広がってほしい。
仲間が多いということがこんなに豊かになること、感動しました。人の意見をゆっくり聞いてくれる場、素晴らしい。
活発な話し合いに感動した。もう少し突っ込んだ議論が必要だったと思う。参加者名簿(プロフィール付)が欲しかった。
もっと議論したかった。リーダーがもっと参加者全員から発言できるよう配慮してもらいたかった。
人数の割にメインの会場が手狭な感じがした。たくさんの方がいたことは良かった。厚食の案内を明記した方がよかった。
今後、このプログラムで取り上げて考えてみたい社会的課題はありますか？
スラム街について 待機児童問題
貧困について(5) 格差問題
世代間交流(2) 若者の社会参画
日本に住む自分のアイデンティティに苦しむ人にもどのようにアプローチできるか
子育て、産む環境について 障がい者の人権について

第6回 オープン・フォーラム・Y 参加者(分類・所属)

番号	コース	分類	役割	所属	性別
1	ユース	院生	参加者	富士大学大学院	男性
2	ユース	院生	参加者	WakeUpJapan	女性
3	ユース	院生	運営	立教大学YMCA	男性
4	ユース	学生	運営	日本赤十字助産師学校	女性
5	ユース	社会人	参加者	とちぎYMCA	男性
6	ユース	社会人	参加者	Y3東京	男性
7	ユース	社会人	参加者	とちぎYMCA	男性
8	ユース	社会人	参加者	とちぎYMCA	男性
9	ユース	社会人	参加者	とちぎYMCA	男性
10	ユース	社会人	参加者	WakeUpJapan	女性
11	ユース	社会人	講師	言論NPO	女性
12	ユース	社会人	運営	Wake Up Japan	男性
13	ユース	学生	参加者	とちぎYMCA	女性
14	ユース	学生	参加者	茨城YMCA	男性
15	ユース	学生	参加者	立教大学YMCA	女性
16	ユース	学生	参加者	とちぎYMCA	女性
17	ユース	学生	参加者	立教大学YMCA	男性
18	ユース	学生	参加者	文教大学	女性
19	ユース	学生	参加者	早稲田大学	女性
20	ユース	学生	参加者	慶応大学YMCA	男性
21	ユース	学生	参加者	明治大学	女性
22	ユース	学生	参加者	とちぎYMCA	女性
23	ユース	学生	参加者	とちぎYMCA	女性
24	ユース	学生	参加者	山手学舎	男性
25	ユース	学生	参加者	山手学舎	男性
26	ユース	学生	参加者	山手学舎	男性
27	ユース	学生	参加者	山手学舎	男性
28	ユース	学生	参加者	開智国際大学	男性
29	ユース	学生	参加者	桜美林大学	女性
30	ユース	学生	参加者	青山学院大学	女性
31	ユース	学生	講師	明治大学	男性
32	一般	社会人	講師	水野泰孝法律事務所	女性
33	一般	社会人	講師	東京YMCA	男性
34	一般	社会人	講師	東京YMCA	女性
35	一般	社会人	講師	ヨガイストラクター	女性
36	一般	社会人	講師	iDenチーフインストラクター	女性
37	ワイズ	社会人	参加者	東京武蔵野多摩	男性
38	ワイズ	社会人	参加者	東京まちだ	男性
39	ワイズ	社会人	参加者	東京たんぽぽ	女性
40	ワイズ	社会人	参加者	世田谷	男性
41	ワイズ	社会人	参加者	埼玉	男性
42	ワイズ	社会人	講師	所沢	女性
43	ワイズ	社会人	運営	埼玉	男性
44	ワイズ	社会人	運営	東京武蔵野多摩	男性
45	ワイズ	社会人	運営	東京八王子	女性
46	ワイズ	社会人	運営	東京山手	男性
47	ワイズ	社会人	運営	東京サンライズ	男性
48	ワイズ	社会人	運営	宇都宮	男性

参加者統計				
ユース構成	ユース	31	シニア	17
分類比	学生	23	社会人	25
男女比	男性	27	女性	21
YMCA比	YMCA	31	その他	16

第6回オープン・フォーラム・Y 会計報告

収入の部		支出の部	
参加費	27,500	昼食代	20,372
懇親会費	10,000	休憩時茶菓	6,150
備品寄付	19,422	懇親会費	8,043
		備品	19,422
		謝礼(9人)	90,000
小計	56,922	小計	143,987
ユース事業費	87,065		
合計	143,987		143,987

## 第6回オープン・フォーラム・Y振り返りの会議事録

開催日時：5月31日 18:00～19:30

開催場所：藤井産業 東京支店会議室

参加者：鈴木洋一氏 (WakeUpJapan)・小口多津子さん (東京八王子)・  
浅羽俊一郎さん (東京山手)・大久保 (宇都宮)

大久保より開催報告案をベースに説明を進め、随時議論を行う方式で進行した。

当日のタイムラインを報告書に掲載したが、こうした資料が次回以降や、別の組織で同様のプログラムを実施する際の参考となることから掲載が望ましいことと評価した。

参加者からのアンケート結果から次回以降の方法などの話し合いがなされた。

Unconference については、参考になったかの質問に対して「どちらとも言えない」時間については「ちょっと短かった」が多くあり、発表者のスタイルによって消化不良などが発生していたと考えた。次回には、事前説明で「面白くなかったら離席して全く問題ない」という点を強調して開始することにした。

また、参加しても全く話せないことがあり、満足度が低い場面があったとの指摘があり、次回には、それぞれの最後に二人組程度で話し合うことで補うことにした。

分科会セッションは、「講義」形式で話し合いがなく疲れたとの指摘があり、次回には、それぞれのセッションが「講義」「ディスカッション」と言ったスタイルを明示することで参加者の選択の材料とするように説明することにした。

次回の取り上げたいテーマとしてある「世代間交流」についてはリソースパーソンとしてワイズメンが強く関わってもよいのではないかと考えた。

ここから報告書から離れ、いろいろテーマについて自由討議された。

リピーターを作る仕掛けが必要と思われる。Facebook を活用して「いいね」要求から継続性を保つことができる。

今年中に交流会を開催したい。友人を一人連れてトークセッションの後、交流を図るようなプログラムを企画したらどうか？

このようなフォーラムとは別に、参加者が「今後、自分はどんな風に生きていくかを考えて (浅羽さん)」「安心してお話しできる空間 (鈴木さん)」となるようなプログラムを作るべきなのではないか？日本 YMCA 同盟の参画が望まれる。

YMCA として鈴木さんのような人材を育成していくことが必要である。今後も若手職員のプログラム参加を促していきたい。

以上